

時事新報

歐人遂に日本に向て行遊列車を發するの  
日あるべし

去る九月一日佛京巴里より始て中央亞細亞のサマルカ  
ンドに臨時汽車を發したる由其模様は兩處間に在る名  
所舊跡の漫遊を望む者の便利を計り寢室附の列車を備  
へ車中専ら快樂を旨とし客をして退屈せしめざるの趣  
向にて婦人女子たりとも容易に旅行を思立つ可し汽車  
賃は旅行中の飲食、通辨、汽船、馬車等の諸雜費とも往  
復合せて五千フランク(金貨一千圓)往復日數は二箇月  
の預定にして日數の多き割合又は賃銀は安き方なり扱  
て發車の順序は先づ巴里より、國境の首府ウキヤナ及び  
波蘭境に後國境に歸したるクワコウ府並に風景と古跡  
とを以て有名なるレムバールグ府などを經過して露國の  
境界に入り同國にて第二のメッカ(元のメッカ)の有名  
なるアラビヤの都府にして回教信者の住處とて名所  
舊跡甚だ多しといふ)とも云ふべきキヤ府に進み夫れ  
より南向して黒海の西北岸に在るオプササ府に達しオ  
プササより汽船にて黒海を渡り露國黒海艦隊の軍港ホ  
ルバストホルム府より上陸し此地に一二日を送り各所  
を見物し次に千八百五十四年の十月廿五日英露兩軍  
の激戦せし古戰場あるバラクラフ府にも至るを得べし  
是れより馬車にて彼の露國時人の稱賛する山水の秀逸  
を以て有名なるペイター湖を通過しヤルタに達す、ヤ  
ルタの小都會にしてセバストホルム府より西南西を去  
る卅二マイルの所に在り此間ウオロフピラ、リパヤ  
アの市街并にクリミヤの南濱を經過す、ヤルタよりハ  
再び汽船に乗りてコーカサンの沿岸に在るノボロレ  
ツク港に著す此地は世にサヤカレと呼ぶ所にして見  
物すべき場所多ければ之れを巡覽し終りアラヤカ  
カス(此地はモスコ、コーカサス間の鐵道の終る所な  
り)まで汽車にて達し此れよりコーカサスの首府チフ  
リスまでは鐵道の便向は開けざるを以て驛次に因り爰  
にて一日を費し再び鐵道にてパークー府に著す此府  
の東海の西岸に在りて露國ビートル大帝の世に建設し  
たる二重の城廓と深溝とを以て府外を固めり夫れよ  
り復た汽車にてオーツンアハ往く同地は即ちトラン  
スカスピヤン線路の合する所にしてゴクランス、テネ  
ス及び土耳其人種の住める諸地を過ぎ去りてアスカハ  
ツドといへる地に達す其地はマープにして是れよりオ  
カス河を渡り然る後爰に始めてサマルカンドに達す  
サマルカンドは即ちカイベリアアティモール州の首府に  
して彼の北モスコ府を襲ひ南印度を征し土耳其帝を  
一服の下に處にし遂に支那をも侵略せんと企てたる蒙  
傑木兒の根據の地は即ち此府にて今尚ほ其遺蹟あり  
其他斷崖古城の蹟るべきもの甚だ多きのみならず殊  
無價の和として植物、畜産、其近傍風景の美あるは夙に  
東洋時人の稱賛する所なり又此地に至れば次にボクハ  
ツ府に遊ぶを得べし同府も亦中央亞細亞の一都府にし  
て美術を以て名あり殊に回教信者の住む所あり因て  
右の二府に滞留すると五日間として歸途に就く由今回  
の旅行の如きは曠又は亞細亞地方の驚く可く喜ぶべき  
事多しを體験して又地理學上の智識を弘むる愉快と有益  
とを兼ての鐵道旅行といふべきなり

右の如く中央亞細亞と露國との交通はサマルカンド  
鐵道の爲り非常の便を得、巴里市邊の紳士淑女は  
鐵道の爲り手と稱へて鐵道に搭し一層の汽笛に

送られて中央亞細亞の原頭に其遊觀を極むるは文明の  
快事なれど過ぐるものある可らず然るも今日の處にて  
サマルカンド鐵道の影響は獨り中央亞細亞に其澤を及  
ぼすのみにして東洋諸國には關係あらずと雖も彼のサ  
イペリヤ鐵道の成るに至らば歐人の臨時汽車を發して  
東洋諸國の第二のサマルカンド行を試みるや疑ある可  
らず此時に當り我日本如きは東洋の一樂園にして山  
笑ひ水嬉びて巴里士女の行遊を迎ふるあるも肝腎ある  
主公の日本人民にして豫めみれに接するの覺悟なく  
んば折角の來賓をして失望せしむるなきを期す可らず  
我輩の遺憾とする所あり唯サイペリヤ鐵道がサマルカ  
ンド鐵道の如く成るや成らずの一事は少しく疑ふべ  
きも似たれども其事に就て我輩聊く聞知しざる所も  
あれば他日みれを記して讀者の參考を供せんと欲する  
なり

去る五日の本紙官報欄内司法省告示第六號前橋治安  
裁判所西野馬場ノ内箱田村の次「上新田村」の四字を  
脱し又後閑村の後家村の誤りなり廿七日の官報に據る  
由記載せしは誤開し付取消す

大坂中立政黨組織の後報 大坂は商業の場所にして  
實業家の多なるの故にや政治上の事も關して今日ま  
で世間に聞えたる程の事もあかりしに今年の春府會議  
員の撰舉に公然たる公會演説を聞らして投票をよそ  
求めされ或は名刺を配布して名聞を弘め或は壯士を派  
して奮闘員を辭職を勧告する杯隨分當選の競争盛んに  
行はれざる事の結果として實業家の府會議員の多く退  
き言論も長じたる代議人之れも代りたる次第及び爾後  
通常臨時とも府會の議場は是れ迄もなく賑はしく原案  
廢棄等も聞えたりたる上府會組外にも言論、吟味漸く  
行はれ發表しては中學校敷地の事となり監獄署巡視の  
件となり牧方堤防築工事の紛議となりて世間の耳目  
を集めたる始末等は毎度本紙に掲載したる所にして大  
坂政治界の波動は何時も代議人社會よりゆらめく習  
なれば他年はいざ知らず今日先づ大坂地方の政  
治は代議社會の専らなる所と云ふて可ざるべく當  
局の代議人も自ら任じ公衆も亦言論によりて政治の事  
を可とするは此等の人の職分なりと評するもの、如し  
然れども此等の代議人諸氏が今日迄の舉動は一切大坂  
の府政治上止まりし天下の大政に關しては別に何等の意  
見をも有せざりし今日まで大同團結を賛成し、自治  
黨を加擔し若しくは國粹保存主義に同意して運動し  
る有志一人もなかりしに於て明くは知るべく言は、一國  
の政治上に關しては無頓着の有様なりし處過般大坂  
全國有志大懇親會を開らざる際九州四國を始め他府  
縣より來集したる熱心の政事有志家と相接して刺戟を  
受け大に悟る所ありしにや其以來俄く其舉動を新さ  
したるものに似たり今其次第を尋るよ去る十五日即ち  
大懇親會の翌日九州の政治熱心有志家前田、多田等の  
數氏と當地代議人の重なる人々とは中ノ嶺洗心館に  
會して政治上種々の談話に及ばんとし九州の有志者よ  
り大坂の政治有志者よ向つて其主義の如何を尋ねざる  
を談話の始めとして雙方とも互に意見を陳じたるに大  
坂有志者も前記の如く別に主義もなく九州の有志家も  
現存する諸政黨の或る一に加入せんとするにもあらず  
りしより此際九州と大坂と相聯合して運動せんとすの議  
を決して九州の有志者も歸國したる後當日出席の大坂

有志の北濱俱樂部にて更らに之れを他の有志に圖りて  
意見を求めたるの中に立憲改進黨の人もあり旁々  
て協談大五六ヶ敷かりし西俱樂部、南俱樂部の會員  
中立憲改進黨員の外は九州と相聯合するに同意し去る  
廿三日遂に九州の有志と合縱するの手續を盡すべき委  
員として菊池侃二氏を撰舉し同氏は來る廿八日熊本に  
て同地有志者の開會する懇親會に列席する都合にて去る  
廿五日大坂を出立したる一事なり聞く所に據れば右大  
坂及九州の政治有志家が據りて以て相聯合せんとす  
の主義は後藤伯の大同團結にも非ず、國粹保存にもあ  
らず去りて又改進黨もあらず官權黨にもあらず諸  
政黨の中間に立つて公平ある政論を主張し着實に施政  
の方針を定め何れの黨派にも偏黨せざる代りには何れ  
の黨派にても同意の處置を取るものに其時限り同意す  
る中立黨として彼の英國の愛蘭士黨の如く諸黨の中間  
にて自ら尊敬愛顧を買はんと欲するものよしあるが  
今や國會も既に一年の後近づき京坂地方は勿論九州  
等も同じ流れの政治熱心有志家は何れの黨も與せん  
とて日和を暇め居るもの多かるべければ中立の名を開  
て忽ち雷同するも多かるべしと雖も此連合黨は名詮自  
稱の眞の連合黨にして首領たるものなく言は、パーチ  
ル氏なきの愛蘭黨なれば未來の成行き如何やらんか云  
々と同地よりの通信に見ゆ

自由派の議員、縣廳より出頭す 石川縣にては正副議  
長及び常置委員の撰舉、警察廳舎建築修繕費等を議決  
せしめん爲め去る十五日より臨時縣會を開き議員  
中眞館貞造氏は其資格を失ひたりとの説あれば此際議  
查ありたし自由派議員の論出せしより一場の紛議と  
なり改進自由兩派の人々交々立論難駁互に自説を  
主張する中、自由派ある八名の議員は警官の手を以て  
退場せられたりといふ取敢へず本紙上に掲載し置しが  
自由派の議員は所説の實達せざるを遺憾に思ふの餘り  
去る廿二日午前十時卅分遠藤秀景小間齋外十名の諸氏  
打擲して石川縣廳に出頭し岩村縣知事郷田徳久の兩書  
記官、安達議事課長、南收稅長の五氏に面會し種々の質  
問をさせしが其要項は退場を命せられし事(第二)議會  
組織の事(第三)眞館所有の地券に關する事(第三)等  
て退場せし午後二時過ありし由なるが第一項は就て  
は府縣規則に照し奇も擧動の強暴も涉るものに對して  
は警察官の處分を求め得べきも吾人は決して兇暴の舉  
動をなしたる覺を以て反對者を難難したるを以  
て強暴に涉るものと云ふべし然らば田谷孫三郎氏等の  
如き當時未だ一言をさへ發せざる者をも併せて退場せ  
しむるの抑も何の理由もや殊も警官はたどへ議長の求  
めたるも強暴の事實如何を具し聞取り果して處分すべ  
きものなりや否との事實明瞭したる上に決行してこそ  
至當なれ然るよるの手續の此も出でざりしは如何なる  
都合ありしや云々又第二項は就きては知事は内務大臣  
の指令に正當の議會なりとありたれば正當と認むるよ  
り外おしと云ふと雖もとも同大臣は今回の事實を上  
申するや單に云々の事異議の申立をせずものありと  
のみ云は、大臣は最小の事柄ならんと想像して此の一  
照全體の事件に指令を下されしやも未だ知るべからず  
殊も投票の際、議員の數を計算するに誤あり依て今回  
の臨時會は斷然之れを取消し雙方異論の事情を具陳し  
て内務大臣の指揮を請はれたし左あきま於ては吾々は  
直に同大臣に事情を具陳し行政裁判を仰ぐの外なし云  
々又第三項は登記法の事に就き彼是推問したりと云ふ

暫く通信の  
○銀鉛山採  
南浦原郡五  
て許可を得  
は善良なる  
と云ふ  
○越中能登  
越より石  
して交通の  
によりて  
るが峻功の  
等の道路  
○鴨 鴨は  
の頃には比  
云ふにも  
一團中鴨同  
とに取て相  
降雨にて捕  
○佛敎眞理  
木挽町厚生  
○越町區  
他の有志者  
の紅葉館  
○全修學校  
授し英學部  
九夜學科を  
○地質圖  
の日本帝國  
圖等の刊行  
配布し  
○書畫雅集  
天長節の祭  
請求策集  
○詩、歌、文  
俳文、在文  
九(清樂合  
の催しも  
揮毫する  
さみとなる

三編  
三編警視  
にして其  
民に對す  
日本人の  
なり帝室  
めりて故  
する功勞  
可らず切  
もあらん  
萬別ある  
る人々に  
國あれば  
ど好しそ  
する一種  
然るよ去  
唐氏が體  
の類は悉  
しが「云々